

ようこそ

副校長 堀江 嘉明

韓国・京福大学校の皆様、昨年度に続いて、行永分校にお越しいただき、ありがとうございます。

今から26年前、1998年に日本の小渕首相と韓国の金大中大統領との間で『日韓共同宣言』が出されました。これは、両国の友好関係をさらに深めるための決意を固めたものです。これをきっかけに、様々な交流が急速に進みました。2002年にはサッカーのワールドカップ日韓共同開催が実現し、日本では韓国ドラマが放映され、空前の「韓流ブーム」となりました。多くのドラマでは、韓国の人々の国民性や礼儀正しさ、他者に対する思いやりの深さを知りました。

2008年10月、李明博大統領の時ですが、私は全国から集まった中学校・高校社会科教員とともにソウル大学校にて3週間の研修を受ける機会がありました。大学校で大学教授から歴史、経済、文化に関する講義を受けるとともに中学校や高等学校などにも訪問し、実際に授業に参加しました。「教育は人なり」のことばがありますが、韓国政府が未来を担う人材育成に多くのエネルギーを注いでいることに驚きました。また、水原華城、仏国寺など各地の歴史的建造物などに触れ、その壮大な歴史を肌で感じました。

私が韓国を訪問して印象に残っている川が2つあります。一つは臨津河です。臨津河に面する臨津閣にかかる「自由の橋」にて目撃した離散家族の方々の悲しみを心に刻むべきと思いました。もう一つは洛東江です。安東河回村にて両班の屋敷を見学しました。それも印象に残りましたが、洛東江付近には一面に白菜畑が広がり、そこに真っ赤な夕陽が落ちようとしていました。その光景はまさに故郷を思い出させるものでした。

文字がハングル、ひらがな・カタカナの違いはあれど、同じルーツを持つと思いを深め、ますます韓国が親しいものとなりました。その後、私は高等学校の教壇で多くの生徒に韓国の素晴らしさを折りに触れて述べてきました。

私には「思い出」の品があります。それは、韓国の経済発展の原点の一つであり、現在、世界有数の鉄鋼大手企業「浦項製鉄所（現在POSCO）」からいただいたものです。今から51年前（1973年）、最初の高炉が稼働し、良質の鉄鋼を大量に生産し、インフラを急速に整え、世界中を驚愕させる「漢江の奇跡」を成し遂げました。

この浦項製鉄所の開業には韓国人技術者と新日本製鉄（現日本製鉄）などの日本人技術者との技術者同士の「交流」「協力」、そして「友情」がありました。「交流」や「友情」はやがては、両者の「克己」心を高め、お互いに「尊敬」しつつも、「負けられない」「負けるわけにはいかない」という宿命の「ライバル」として、日々切磋琢磨することとなりました。

地理的には日韓両国の間には対馬海峡がありますが、日韓関係はまさに「一衣帯水」の如くであります。4世紀以降に半島から渡来した人々が、製鉄などをはじめとする様々な技術や文化を伝え、日本は大きな発展の時期を迎えたことも、「縁」を感じずにはおられません。

現在は残念ながら、休業中とお聞きしていますが、数年前、浦項港と舞鶴港との間に定期便フェリーが就航していました。舞鶴湾のはるか彼方の浦項に思いを馳せるとともに、2025年には日韓国交樹立60周年の記念の年となります。皆様にとっても実りある研修となることをお祈り申し上げ、歓迎の挨拶とさせていただきます。